

築地体三十五ポイント仮名

「彫る」ことで生まれる線質、「書く」ことで表現される線質

小宮山博史

初号につづく大ききの書体が「築地体三十五ポイント仮名」です。長くデザインの現場におられ、写植組版に慣れた方なら「おッ、YSEMだ！」と言われるかもしれませぬ。写植の

写研書体では「新聞特太明朝体」ですが、読売新聞をご購読の方は見出しをご覧下さい。この書体と同じですよ。YSEMの略は「読売新聞社使用エキストラボールドウェイト明朝体」でしょうか。「三十五ポイント」というサイズは新聞の本文活字の五・五倍☆註三九に相当します。一般印刷用では一ポイント大きい三六ポイント（角寸法一・二・六五ミリ）がふつうのサイズです。三六ポイントを一ポイント小さい活字サイズに鑄込んだものが新聞用ですが、字形は変わりません。確認したもつとも早い三六ポイントの見本帳は大正八年改正と明記された東京築地活版製造所『三十六ポイント総数見本全』です。この書体の出自も築地活版であることがわかります。

覆刻された三五ポイント仮名は、昭和九年八月民友活字製造所が発行した『三十五ポイント見本帳』★図七から起こしてありますが、初号同様民友社のオリジナルではありません。★図八

この仮名書体の大きな特長は「線質の鋭さ」です。現行の書体の中でもこれほど鋼を曲げたような強いしかし心地よい線質を持つものはないようです。この見本帳に収録されている仮名書体は原寸手彫りの種字から鑄造されたものですが、これを覆刻するときに先ず問題となったのが「線質の鋭さ」の再現でした。『日本の活字書体名作精選』の九書体の復元作業は、まず資料と決めた当該書体をニコン万能投影機6C型を使って一〇倍あるいは二〇倍に拡大し、トレースします。このトレースを正確に二インチ（五〇・八ミリ）大に縮小し、私がいづも使っている二インチを四〇分割した方眼紙（原字用紙と言います。☆註四〇）にライトテーブルを使って鉛筆で正確に慎重にトレースします。本来は写真などを使って原資料から直接拡大すれば、字形だけ

☆註三九……新聞倍數制 新聞社だけが使う活字寸法。昭和一二（一九三七）年新聞社は一〇〇分の一インチ（これを一ミルスという）を活字単位とし、紙不足が明らかになってきた昭和一七年、それまで正方であった本文活字を扁平活字に変更する。活字サイズが小さくなり読みにくくなったため、それまで本文活字の右に付けていた半角のルビを取り、その二分の一を本文活字の活字表面として使用した。天地を一〇〇パーセントとする左右は一・二五パーセントになる。つまり八対一〇の平体二である。天地寸法は八八ミルス、左右寸法は一〇ミルスとなる。この天地サイズが新聞活字の基本寸法で扁平一倍という。本文活字が大きくなっていくにもかわらず扁平活字を使っている理由はなんだろう。正方だと新聞らしくないということか。本文活字だけが扁平であつてはすべて正方活字である。五・五倍は本文活字の天地サイズの五・五倍の大きさであることを示している。ただし基本寸法は拡大された本文活字以前の八八ミルスにたいする倍數である。現在では本文活字だけが独立したサイズといえるだろう。

☆註四〇……原字用紙 昭和二〇年代中頃、活字母型が原寸の彫刻種字を使った電胎法から、拡大原字を使ったベントン母型彫刻機による母型材への直刻に変わった。拡大原字は通常本文サイズでは二インチ正方が角寸法（四〇分割された方眼紙）で、その内側に三六分割の基準枠（九〇パーセント当）を設け、そこに下書きされる。その上に下が見える紙（トレーシングペーパーなど）を置いて墨入れする。これを感光液を塗った亜鉛板に合わせて感光し、硝酸液で腐食すると文字面が凹になったパターンができる。これを彫刻機にセットしてカッターで母型材に彫刻すると母型になる。感光させるためにホワイトなどでの修正はできない。修正不可のため墨入れの技術はこのころがもつとも優れていた。

活字メーカーはのちに写植に参入したが、原字用紙は活字用のものを流用してデザインがなされた。私は前身が活字メーカーである現リョービーマジックス株式会社で書体デザインを教わり、仕事もしたので、インチ寸法の原字用紙を使っている。写植から出発した写研やモリサワは四八ミリの原字用紙を使っているはずである。

でいえば狂いは少ないのですが、トレースを行うことで線の特長がある程度理解でき、墨入れのときの線の細太の関係を知らることができるようトレースをあえて行います。原字用紙にトレースするときインキのはみ出しや線の方向の乱れを修正することになりますが、トレースによる試行錯誤からあり得ない線と太さは理解できていますので、わりあい正確な復元が可能になると思っています。

活字は大きな力でプレスされ印刷されますので、どうしても活字そのものの表面の太さ大きさは異なります。印刷されたものが正の姿であるとは言っても、あまりにも大きく違うところは解釈しなければなりません。それと先端部の太さの処理がどうなっているかも重要な要素になります。先端が太さを持たないゼロミリで終わるのか、あるいはすこし太さがあり結果として安定した落ち着いた雰囲気で終わるのかどうか。印刷機でプレスされれば細いところに大きな圧力が加わり太くなってしまいます。

彫り師達はこの太みを回避するために、繊細な調整を行っています。それはハライの先端に行くに従って種字表面をほんのわずかに低く作るのだそうです（水平ではなくわずかに傾斜を付ける）。そうすることで印刷機の圧力を一番最後にもっとも細いハライの先端に持ってくることで、細い先端を表現できたといえます。この話は岩田母型製造所の社長を務められた高内一氏にうかがいました。

光源・レンズ・ネガフィルム状の文字盤・印画紙を使う手動写植は、どうしてもある一定の太さがなければ光が抜けていきませんので、ハライの先端をゼロにした場合は再現不可能となります。

★築地体三十五ポイント仮名（四九級）

あめつち
ほしそら
やまかは
みねたに
くもきり
むろこけ
ひどいぬ
うへすゑ

デジタルフォントはこのような心配はなく、完全な再現は可能です。しかしここで問題がおきてきます。二インチの原字用紙上にトレースされた鉛筆書き原字に面相筆を使ってフリーハンドで墨入れしますが、彫刻された種字から铸造された三十五ポイント仮名の特长である線質の鋭さを再現できるのかということですが、わずかな線の引き違いも鋭さを削ぎ字形を狂わすものになります。「彫る」ことで生れる線質と、「書く」ことで表現される線質は別ものです。今回の覆刻ではひらがなの線質の再現がもっとも難しいことでした。手書きされた原字はスキヤニングののち Adobe Illustrator を使ってより整理されたデータに変換されましたので、手書きのときの不確実な曲線はなくなり、より原資料の線質に近づいたと思われませんが、正直なところもう一步という反省があり、自分の実力の限界を感じました。

この三十五ポイント仮名は、手書きと活字化という相反する要素の微妙なバランスの上に成立する優秀書体です。組み合わせる漢字書体は仮名に合わせてフトコロが少し狭く、線質やエレメントが鋭いものがよいかもしれませんが。漢字と仮名のウエイトを変えてもおもしろい組版ができるかもしれないですね。おもしろい組版ができたなら、あるいはこの書体を使いたい組版を見たらぜひお知らせください。

◎組版仕様

書体=ヒラギノ明朝 Std W5 (漢字・欧文・アラビア数字) + 築地体三十五ポイント仮名 (仮名, 「日本の活字書体名作精選」より)

見出し=サイズ: 60 級 / 本文 (p.98) = サイズ: 49 級 字送り: 61.25 画 行送り: 73.5 画

本文 (p.99 ~ p.101) = サイズ: 16 級 字送り: 20 画 行送り: 30 画 1 行: 33 字詰め・22 行

◎発行=大日本グラフィック製造株式会社 ◎デザイン=組版=向井裕一 (gymh)

(2005.03.18)

★築地体三十五ポイント仮名 (四九級)

ア メ ツ チ
 ホ シ ソ ラ
 ヤ マ カ ハ
 ミ ネ タ ニ
 ク モ キ リ
 ム ロ コ ケ
 ヒ ト イ ヌ
 ウ ヘ ス エ



三十五ポイント見本帳

東京市京橋區銀座西八丁目五番地一號

民友活字製造所

渡邊宗七

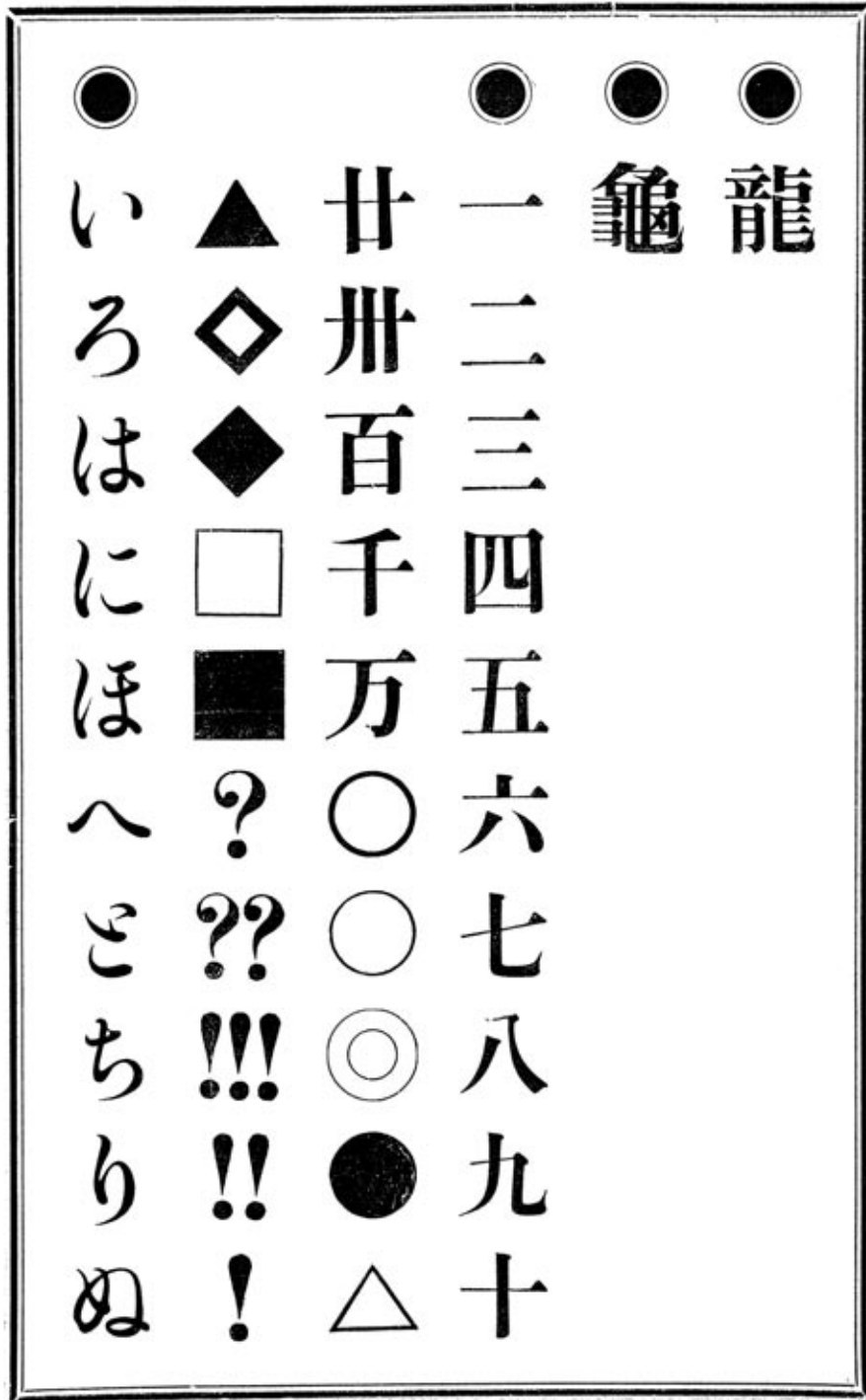
電話銀座(57)六六八番
振替東京三六四一〇番

★圖二七一……民友社活字製造所『三十五ポイント見本帳』(昭和九年八月刊)

★國二七一……民友社活字製造所「三十五ポイント見本帳」(昭和九年八月刊)

●	糸	精	米	築
系	糠	粿	篤	篤
紕	糖	粿	篠	篠
約	糞	粕	簞	簞
紀	糟	粉	簡	簡
紅	糯	粒	簿	簿
絞	糶	粗	籤	籤
紊		粟	籍	籍
納		粧	籠	籠
純		粹		
紗				
紙				
級				
紛				
索				
素				
紡				
紫				
累				
細				
紳				
紺				
紹				
絨				
終				
組				
結				
絶				
絞				
給				

★図二七二……民友社活字製造所「三十五ポイント見本帳」(昭和九年八月刊)



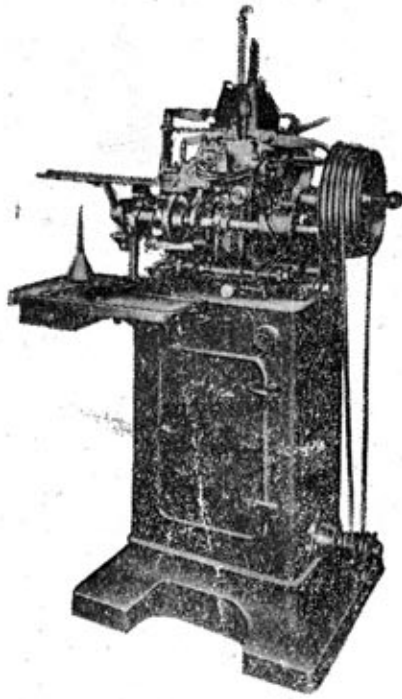
るをわかよたれそつね
ならむうるのおくやま
けふこえてあさきゆめ
みしゑひもせすん
がぎぐげござじずぜぞ
だちづでどばびふべほ

七三

るをわかよたれそつね
ならむうるのおくやま
けふこえてあさきゆめ
みしゑひもせすん
がぎぐげござじずぜぞ
だぢづでどばびふべぼ

三七

活字見本帳



民友社活字製造所

★図二八一……民友社活字製造所「活字見本帳」昭和一年三月刊。四〇ポイントは築地初号仮名の字形に倣ったらしいが書体としての品質は格段に劣る。三六、三五ポイント仮名は同じ字形。最初に三六ポイントが作られ、後にそれを一ポイント小さい三五ポイントに铸込んだ。

三二ポイント仮名は明らかに秀英舎の仮名である。一般の活字製造所は自社独自の書体を開発するのではなく、他社から母型を買って铸造するか、あるいは活字を買ってきて複製するかのいづれかで、活字見本のラインアップを増やしていった。

ト ン イ ポ 十 四

てあるこれは黄色がかつた
紙の上に今の二號位の大き
さで一行五字づめ三十行程
印刷されてあるさてこの印
刷の法であるが今日から見

トシイボ六十三

れば刷り方も幼稚であるから
其仕方などもよく判らぬので
種々の説が樹てられてあつて
或は活版であると云ひ或は銅
版であると云ひ或は木版だと
断定して居る第一の活版だと

の説は餘り突飛であるが銅版
は聖武天皇が奈良の大佛を鑄
造された事から推考し又木版
と謂ふのは數多の刷本の字畫
が不統一であるから數多の版
を用ひたに相違なくさすれば

トニイボ二十三

木版であらうが然し是等の説は
未だ一致して居ないが一枚の板
の上に經文全部を刻んだ版であ
るから活版でない事だけは疑を
容れぬ何れにしてもこの様に尊
いものが我が國にのみ現存して